

カパー ストリーム



Vol. 1
2010.10

巻頭 特集

瀬戸内
国際芸術祭
2010

プロジェクト Copper in 香川県男木島

銅管アートを見に行こう!

今年5月、日本銅センターにあるアーティストから一通の手紙が届いた。内容は、今年7月から開催される『瀬戸内国際芸術祭2010』に出展する作品に銅管を使用したいので協力をお願いできないか、というもの。“島の生活と、水と銅によるアート”というシチュエーションに共鳴し、素材の手配や銅管を施工する際の疑問点などのアドバイスも行った。そしてこの夏、無事に完成したという報告を受け、作品を拝見するため、瀬戸内海にある男木島を訪ねることにした。



●瀬戸内国際芸術祭 2010

- 会期…2010年7月19日～10月31日
- 会場…直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺
- 主催…瀬戸内国際芸術祭実行委員会

巻頭特集/プロジェクト-C 銅管アートを見に行こう!

(女木島 >>> 男木島)

七つの島で、アートと海を巡る

「瀬戸内国際芸術祭2010」は、壮大なスケールの芸術祭である。起点となる高松港をはじめ、瀬戸内海にある7つの島々に、世界中から参加した75組のアーティストやプロジェクトチームの作品が展示され、また16のイベントも催されている。お目当ての作品と出会うために、船に乗って美しい瀬戸内海の海と島々を巡る。これ自体がまさに「宝物探し」といった趣きで、夏休みの子供たちへの最高の贈り物となっている。

我々が男木島を訪ねたのは、8月の中旬。羽田から空路で高松へ飛び、そこからバスで高松港へ。男木島は、

映画「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台となった島だ。女木島を経由してフェリーで渡る。到着した我々を迎えてくれたのは、海辺の強烈な日射し。島に着いたのは午後3時近くだったが、目眩がしそうなほどの暑さである。とりあえず港の総合受付となっているモダンな建物（出展作品）の中へ避難。ここは島で唯一クーラーのよく効いた建物である。ほっとひと息つきながら、今回、我々が協力したアーティスト＝谷山恭子さんと合流。彼女の作品は、島の3カ所に設置されている。展示場所へと案内していただきながら、お話を伺うことにした。



谷山恭子 Kyoko Taniyama Profile

1972年愛知県出身、東京在住。1994年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒、1996年武蔵野美術大学造形学部大学院修了。個展、グループ展で意欲的に作品を発表するかたわら、パブリックアートや建築プロジェクトなどにも参加。雑誌・新聞・TVなどのメディアでも取り上げられている注目のアーティストだ。

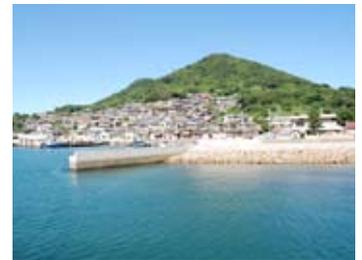
※詳しくは、ホームページへ www.kyococo.com



島への移動手段はフェリーや高速船



女木島は、通称「鬼が島」あの桃太郎伝説の島だ愛嬌がある鬼灯台が印象的



階段状に民家が密集する男木島

島の生活がヒントになって生まれた作品『雨の路地』

谷山さんの作品名は『雨の路地』。

「男木島を訪れる前は、島の人々は海に囲まれ護られてのんびりと暮らしている、そう思っていました。しかし、実際に島のみなさんとお話をしていく内に、昔、男木島は厳しい水不足で、真水の確保に随分と苦労されていたことを知りました。いくつも井戸を掘り、また雨が降れば少しでも溜めておけるようにいろいろと工夫されたそうです。そんなお話を伺いながら、もっと島の人々の暮らしを

知りたい、暮らしに溶け込んだ作品を作りたいと思いました。そして、私も実際に雨水を集めてみよう、その水で夕立ちを降らせてみよう、と考えたのです」

いまでこそ男木島には水道が高松市からひかれているが、それまでは各家庭で井戸を掘るなど、真水は何よりも貴重だった。では雨の“路地”とは？

「男木島は、島の高台に向かって階段状に民家が密集し、狭い路地、石段がくねくねと頂上まで続いていま

す。路地はすぐにコーナーとなり、先が見えないのです。この路地を曲がって、突然雨が降って来たら面白いのでは、と思い立ちました。しかもその雨は、島民のみなさんが実生活で使われていたヤカン、バケツ、タライ、鍋などの底に穴を明けた物から降ってくる仕掛けに。島のみなさんの生活の一部が、作品の主役になれば素敵だと考えたのです」

巻頭特集/プロジェクト-C 銅管アートを見に行こう!

水と相性の良い 銅の風合い、経年変化の美しさも楽しみ

ここで、谷山さんの作品の仕組みを紹介しておこう。作品を設置しているのは、建物の壁や路地の石垣の上などで、雨水はスレート屋根を伝わり雨樋から水瓶に溜められていく。溜った雨水はポンプで吸い上げられ、路地の上に突き出した銅管を通り、銅管の先に着けられたヤカンや鍋などから雨となって人々の頭上に降り注ぐ。ところで、なぜ銅管を選んだの

【作品に使用した銅管ほか】

- 20A Lタイプ (22.22φ×1.14t×4000L) …… 30本
- 20Aエルボ …… 60個
- フラックス …… 2本
- は ん だ …… 2巻

だろう。

「今回の作品の要素は、水、ヤカン類、配管とシンプルなものです。だからこそ、配管の素材はとても重要だと思いました。銅管は、その風合いが島の景観によく溶け込むだろうと考えたのです。また銅管であれば、年月が経れば緑青などが生まれ、経年変化で美しく変化していく様も期待できます。

銅は、金属の中でも一番生きていくような感じがする素材だと思いました。使い方によっては、アート作品をより生き活きとさせる力を持っているのではないのでしょうか。また、特に今回の“水”との感覚的な相性の良さも感じましたね」

銅管を通して降り注ぐ夕立ちは すっかり島の風景の一部に

なるほどアーティストの視点は、ひとと味違うものだと感心しながら、狭い路地を曲がっていくと、突然、夕立ちが!見上げるとバケツやトライからシャワーのように雨が降っている。ちょうど雨を降らせるタイミングに訪れることができたようだ。

「1日3回、5~10分程度の夕立ちを起こすイベントを催していますが、日照りが続くと、私の雨は降らせることはできません。そういった島の現実もまたこの作品の大切な要素だと思っています。この作品の施工は、梅雨時期の炎天下での作業となりました。作品を設置する場所の草刈り、がれき運び、土地の整備、そして不慣れた銅管の接合など、まさに重労働

だったのですが、島のみなさんにご協力いただきながら、なんとか完成させることができました。雨水だけでは実現できず、井戸水を使わせていただけることにもなりました。こうした“水や労働”を通して、島のみなさんとふれあうことで、やっと私の作品は島の風景の一つになれたのだと思っています」

夏の夕暮れ、瀬戸内海の潮風が日中のうだるような暑さを和らげてくれる中、やさしく降り注ぐ人工の夕立ち。夕日に美しく輝く銅管を使った谷山さんの作品は、男木島の牧歌的風景とほどよく溶け合っ



1本1本丁寧に銅管を加工する



展示場所を整地し、銅管を設置



銅管の先にトライや洗面器などを接続



作品が完成



作品には「瓦の道」「玉姫宮道しるべ」「階段路地」と名前がつけられている
雨を降らせる時間は、11:30、13:50、16:50の1日3回

カパーニュース

日本銅センターと銅管の最新情報をお届けします

NEWS-1 日本最大級の環境展示会に日本銅センターが出展

エコプロダクツ 2010・第12回 12/9(木)～11(土)

今年で12回目となるエコプロダクツ展は、「持続可能な社会の実現」という目標に向けてエコプロダクツの導入・使用をメッセージする国内最大級の環境展示会です。今回は、約750の企業や団体が出展予定で、ビジネスパーソンから一般消費者、学生まで幅広い来場者が約185,000人予想されています。この展示会に日本銅センターが出展します。

展示場所は、東2ホール。エコマテリアル＝銅管の魅力や銅の抗菌性を生かした商品などを展示予定です。ぜひみなさまもご来場ください。

- 日 時…12月9・10・11日
10:00～18:00
(最終日は17:00まで)
 - 会 場…東京ビッグサイト
(東展示棟1～6ホール)
- 詳しくは、<http://eco-pro.com>へ



……… 展示会テーマは ………
G(グリーン)×C(クリーン)革命!
～いのちをつなぐ力を世界へ～

NEWS-2 まもる金属「銅」その衛生的な特性をPR 10/20(水)・21(木)

松山水道展 (第44回水道資機材展示会)

日本水道工業団体連合会が主催する水道展(水道資機材展示会)が、今年は松山市で開催されます。日本銅センターは、人々の健康・生活をまもる衛生的な管材＝銅管の魅力をさまざまな角度からアプローチします。

例えば、公立小学校の水道用配管に銅管が採用された事例、宇宙に飛

び立った抗菌クツ下など、子供も大人も専門家も楽しくご理解いただける展示を準備しています。

- 展示会テーマ …「水道の安全は社会の安心です。計画的な更新を！」
- 日 時 … 10月20日(水曜) 9:00～17:00
… 10月21日(木曜) 9:00～16:00
- 会 場 … 松山中央公園/運動場広場



展示ブースイメージ

NEWS-3 銅管講習会を大阪・久留米市で開催

今後も接合技術講習を全国で展開予定

日本銅センターは、本年6月・9月と大阪配管高等職業訓練校及び福岡県久留米市筑後配管設備高等職業訓練校の依頼を受け、銅管講習会

を実施しました。

主な内容は、銅管の基本知識及びはんだ付・ろう付技能習得で、多くの参加者より好評を得ました。

今後もこのような講習会を開催予定です。
興味のある方は、日本銅センターまでお問い合わせください。

TEL.03-3836-8821



座学と実習、両面から講習を実施